

## 概要

### プロセッサ ライセンスの変更

#### 企業向け、教育機関向け、および官公庁向け - Open License、Select License、Enterprise Agreement、すべての Academic ライセンス

お客様のビジネス ニーズの拡大に対する継続的な対応の一環として、マイクロソフトでは、サーバー ライセンスに対していくつかの変更を実施しました。この変更は、2003 年 4 月 1 日より有効となります。こうした変更は、ユーザー CAL と外部コネクタ オプションの導入を盛り込んでおり、サーバー/CAL モデルのライセンス許諾に関連しています。こうした変更については、他のドキュメントで説明しています。この概要では、プロセッサライセンスのモデルにおけるサーバー ライセンスに関する変更を簡単に理解できるように、サンプル シナリオを使って説明しています。

## 説明

今回の変更が実施される前の 2003 年 3 月 31 日以前は、プロセッサ数をベースとしてライセンス許諾を受けるサーバー アプリケーション ソフトウェアを使用する場合、このソフトウェアをインストールまたは実行するサーバーのすべてのプロセッサについてライセンスを取得する必要がありました。さらに使用するソフトウェアの各複製について、個別にライセンス許諾を受ける必要がありました。ただし、いくつかの例外があります。Microsoft® BizTalk® Server 2000 Standard Edition と SQL Server™ 2000 Enterprise Edition などがこの例外に該当します。

4 月 1 日以降、変更が適用されるようになっても、プロセッサをベースとしてライセンス許諾を受けるソフトウェア製品を使用する場合、サーバーに搭載されたプロセッサごとに依然としてライセンス許諾を受ける必要があります。ただし、このルールの特例として、プロセッサが、ソフトウェア実行のために設定されたすべてのオペレーティング システムにアクセスできない状態にある場合、そのプロセッサについてはライセンスを取得する必要がありません (たとえば、パーティション分割を実行した場合)。また、このソフトウェアについて必要な数のプロセッサ ライセンスを取得した場合、任意の数のソフトウェア の複製をサーバーにインストールして実行することができます。

こうしたポリシーの変更により、次の 2 つの点が明らかとなります。1 つ目として、サーバー ハードウェアをパーティション分割したお客様は、サーバーに搭載されるすべてのプロセッサではなく、ソフトウェアのサポートに使用されるプロセッサの数だけライセンス許諾を受けることになります。2 つ目として、サーバー アプリケーションで必要となるプロセッサ ライセンスの数が、サーバーに搭載された物理プロセッサの数を超えることはありません。

通常、こうした変更は、プロセッサライセンスのモデルに基づいてライセンス許諾を受ける、現在利用可能な製品の スタンダード エディションおよび エンタープライズ エディションの両方 (適用可能な場合) のボリューム ライセンス使用権に影響を及ぼします。こうした製品には、次のものが含まれます。

- Microsoft® SQL Server™ 2000
- Microsoft® BizTalk® Server 2002
- Microsoft® Internet Security and Acceleration Server 2000
- Microsoft® Commerce Server 2002
- Microsoft® Content Management Server 2002
- Microsoft® Host Integration Server 2000
- Microsoft® Microsoft Operations Manager 2000
- Microsoft® Application Center 2000

(例外 :ここまでで説明したライセンス許諾に関する変更は、プロセッサライセンスモデルのすべてのサーバーの スタンダード エディションに適用されるわけではありません。たとえば、BizTalk Server の スタンダードエディションは、依然として各プロセッサに対して 1 つの複製だけを使用するよう制限されています。お客様が、ライセンス許諾を受けたソフトウェアを使用する場合、適用可能な製品使用権を含め、取得したソフトウェアの使用許諾契約書の規定に従う必要があります)

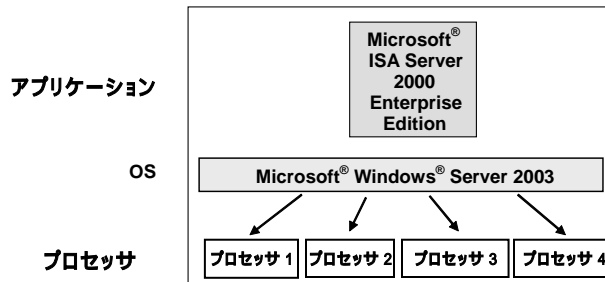
マイクロソフトでは、ボリューム ライセンス契約を締結しており、前述の一覧の製品について既存のプロセッサ ライセンスを保持しているお客様に対して、4 月の製品使用権説明書に記載した修正後の使用権を使用するオプションを提供します。ボリューム ライセンスを契約しているお客様は、新しいポリシーによって "自由度が高まった" プロセッサ ライセンスを再展開することができます。ただしマイクロソフトは、払い戻しや信用供与は提供しません。

## サンプル シナリオ

マイクロソフト サーバー ソフトウェアを使用する一般的なシナリオによって、プロセッサ ライセンスの変更内容の理解を深めることができます。次に 4 つのシナリオを示します。各シナリオには、サーバー コンポーネントの構成の概略を表した図、3 月 31 日以前と 4 月 1 日以降のライセンス要件の明細、各シナリオへの影響に関する簡潔な説明が示されます。

尚、以下のシナリオにおいて、プロセッサモデルのサーバー アプリケーション (たとえば、シナリオ 1 の ISA Server、シナリオ 2 の SQL Server など) は、例示だけを目的として使用されていることにご注意ください。ただし、以下のサーバー アプリケーションは、実在のアプリケーションのライセンス体系に入れ替えることができます。

### シナリオ 1: 4 つのプロセッサを搭載したサーバーでプロセッサモデルのサーバー アプリケーションを実行する



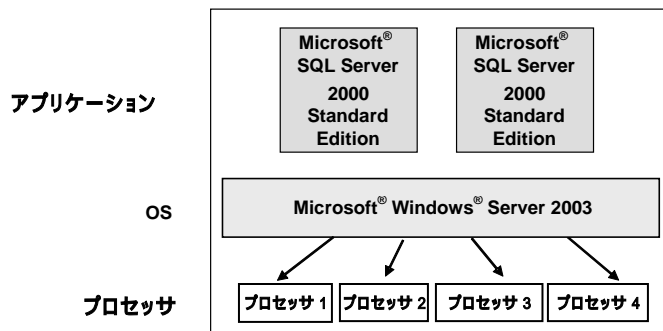
このシナリオでは、新しいプロセッサライセンス モデルを適用しても、ISA Server のライセンス要件に変更はありません。サーバーの各プロセッサについて、ISA Server のプロセッサ ライセンスを取得する必要があります。

マイクロソフト サーバーのライセンス要件

製品	3 月 31 日以前	4 月 1 日以降
Microsoft ISA Server 2000 Enterprise Edition	4 プロセッサ ライセンス	4 プロセッサ ライセンス
Microsoft Windows Server 2003 Enterprise Edition	1 サーバー ライセンス*	1 サーバー ライセンス*

\*Windows Server 2003 にアクセスするデバイスまたはユーザーそれぞれについて、Windows Server 2003 CAL も必要となります

### シナリオ 2: 4 つのプロセッサを搭載したサーバーでプロセッサ数モデルの 2 つのサーバー アプリケーション コピーを実行する



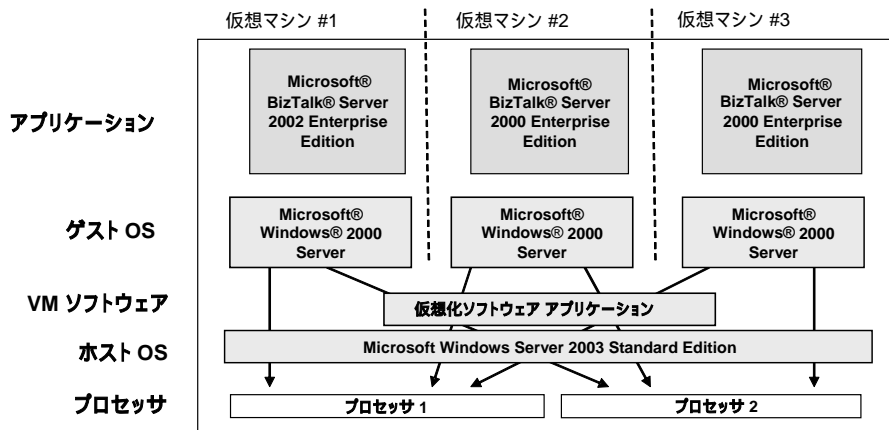
このシナリオは、新しいサーバーライセンス モデルのメリットの 1 つを強調しています。サーバーに搭載されたプロセッサが、サーバー アプリケーション (たとえば、SQL Server 2000 Standard Edition) のライセンス許諾を受けると、そのサーバー アプリケーションをいくつでもサーバー上にインストールして実行することができます。事実上、サーバー アプリケーションのプロセッサ ライセンス数が、マシンの物理プロセッサ数を超えることはありません。

マイクロソフト サーバーのライセンス要件

製品	3 月 31 日以前	4 月 1 日以降
Microsoft SQL Server 2000 Standard Edition	8 プロセッサ ライセンス	4 プロセッサ ライセンス
Microsoft Windows Server 2003 Standard Edition	1 サーバー ライセンス*	1 サーバー ライセンス*

\*Windows Server 2003 にアクセスするデバイスまたはユーザーそれぞれについて、Windows Server 2003 CAL も必要となります

**シナリオ 3: 2つのプロセッサを搭載したサーバーでプロセッサ数モデルの3つのサーバーアプリケーションを仮想マシンにインストールして実行する**



さらに、サーバーに搭載されたプロセッサが、サーバー アプリケーション (たとえば、BizTalk Server) のライセンス許諾を受けると、そのサーバー アプリケーションをサーバーの仮想マシン内にも無制限にインストールして実行することができません。Windows Server の各コピーは、個別にライセンス許諾を受ける必要があります。

**マイクロソフト サーバーのライセンス要件**

製品	3月31日以前	4月1日以降
Microsoft BizTalk Server 2002 Enterprise Edition	6 プロセッサ ライセンス	2 プロセッサ ライセンス
Microsoft Windows Server 2003	1 サーバー ライセンス*	1 サーバー ライセンス*
Microsoft Windows 2000 Server	3 サーバー ライセンス*	3 サーバー ライセンス*

\*Windows Server にアクセスするデバイスまたはユーザーそれぞれについて、Windows Server CAL も必要となります (CAL はバージョン固有)。

**よくあるご質問 (FAQ)**

**Q:ライセンスの観点から見た、仮想化とパーティション分割の違いについて教えてください。VM テクノジ (たとえば、シナリオ 3) を使用する際、すべてのプロセッサに対してサーバー アプリケーションのライセンス許諾を受ける必要があるのはなぜですか。**

A:仮想マシンのシナリオでは、各仮想マシンのオペレーティング システムの複製は、サーバーに搭載されたすべてのプロセッサにアクセスできます。つまりサーバーのプロセッサは、仮想マシンのすべてのオペレーティング システムにアクセスできるようになります。したがって、サーバーに搭載された各プロセッサに対して、仮想マシンにインストールされた各サーバー アプリケーションのライセンス許諾を受ける必要があります (こうしたアプリケーションは、サーバー/CAL モデルではなく、プロセッサモデルでライセンス許諾を受けることを前提とします)。たとえば、上のシナリオ 3 では、VM#1 の Windows 2000 Server は、特定の時間に 1 つのプロセッサだけを使用する場合でも、サーバーの両方のプロセッサを使用することになります。同じことが、VM #2 や #3 のサーバー オペレーティング システムのコピーについても当てはまります。これにより、サーバーに搭載された両方のプロセッサについて、BizTalk Server 2002 Enterprise Edition のライセンス許諾を受ける必要があります。ただし、新しいライセンス ルールでは、各プロセッサは、BizTalk について一度だけライセンス許諾を受ける必要があることを規定しています。したがって、2 つの BizTalk Server 2002 EE プロセッサ ライセンスだけを取得する必要があります。

**Q:SQL 2000 Server の "アフィニティ マスキング" を使って、SQL をサーバーのプロセッサのサブセットに制限します。パーティション分割や仮想化テクノジは使用していません。SQL の "アフィニティ" を実行したプロセッサに対してだけライセンス許諾を受けるようにすることは可能ですか。**

A:いいえ、できません。アフィニティ マスクは、SQL Server などのソフトウェアのスレッド化されたオペレーションとサーバーの特定のプロセッサをリンクします。ただしアフィニティ マスクが、SQL Server の代わりにオペレーティング システムにより実行されるスレッド化されたオペレーションと特定のプロセッサをリンクすることはありません。つまりアフィニティ マスクが、オペレーティング システムのコピーとプロセッサを分離することはありません。SQL などのすべてのサーバー アプリケーションは、特定のオペレーティング システム コピーにインストールされます。そのオペレーティング システムは、アフィニティ マスクで明確にリンクされたプロセッサ以外のプロセッサの能力も利用します。他のリソース管理方法と同様、アフィニティ マスクが、プロセッサとオペレーティング システムを分離することはありません。したがってアフィニティ マスクにより、ライセンス許諾を受ける必要のあるプロセッサが限定されることはありません。



Copyright © 2003 Microsoft Corporation. All rights reserved. Microsoft, Application Center, BizTalk Server, Commerce Server, Content Management Server, Host Integration Server, Internet Security and Acceleration Server, Operations Manager, および SQL Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

このライセンス許諾に関する摘要は、情報提供のみを目的としています。ライセンス許諾されたソフトウェアの使用は、取得したソフトウェアの使用許諾契約書（適用可能な製品使用権を含む）の規定に従う必要があります。